

The 11th IAGG Master class on Ageing in Shanghai 体験記

鈴木 里彩

(日老医誌 2020 ; 57 : 210-211)

2019年12月19日～21日に中国、上海で開催された Master class on Ageing in Asia (以下 MCA) に参加させていただきました。まずはこのような機会を与えてくださった IAGG や日本老年医学会、そして主催の Fudan University の関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

私は現在卒後7年目になります。所属している総合診療科は、2018年に老年病内科から改組された部門です。multimorbidity で、疾病以外にも加齢や障害、社会的背景の影響を強く受ける高齢者を、専門科がそれぞれみただけで果たしてうまく加療していけるのだろうか、という課題を感じ、初期研修後すぐに当時の老年病内科に入局しました。

かねてから、高齢化に関して先陣を切る日本が追随するアジア圏でどのようにみられているか、また、ここまで高齢化が進んでいない他国の先生方にとって老年医学はどのような立ち位置なのだろうと気になっており、今年度は大学院生として時間の融通が利く立場だったことから、さっそく MCA に参加させていただきました。

自分と同じく MCA 初参加、中国初上陸だった東大の岩田裕子先生と羽田空港からご一緒させていただき、会期前日に上海へ発ちました。浦東国際空港までは順調だったのですが、タクシーで別のホテルの前で降ろされてしまい、冬の深夜に上海の細雨に濡れるという想い出深い旅の始まりとなりました。

Day1 はまず全員の簡潔な自己紹介で幕を切ります。今回の参加者は約30名で、中国の方が圧倒的に多く、台湾、韓国から数名ずつ、日本からは金沢医科大学からの浜田先生を加えた3名でした。ほとんどの先生方が日常的に老年医学の診療に従事されていますが、他科の専門で老年医学系の基礎研究をしている先生や、病院総合医として勤務するにあたり、老年医学の必要性を痛感し

て参加されたという先生もいらっしゃいました。

自己紹介のあとは、全員で講義を聴講します。Day1、Day2 を通じて7つのセッションが用意されており、誤嚥・フレイル・せん妄・医療介護連携などの老年医学の主題的なテーマについて、最新の論文やご自身の研究内容を交えてご講義いただきました。英語表現を学びつつ、各国の最先端のフィールドワーク等をまとめて知ることができ、大変勉強になりました。

両日ともに6～8名のグループに分かれて行うセッションが用意されており、これが MCA のプログラムで最も緊張感がありつつ、exciting なプログラムだと感じました。Dr. Jean-Pierre Michel と Dr. Lin Kang 率いる Group A は7名チームで、チューターの先生方の声かけがすばらしく、両日ともにメンバーが活発に発言していて、自分も間違っていないから話してみようと思える環境でした。

Day1 のグループワークは老年症候群を主題とする症例検討です。症例自体は、様々な老年症候群と独居などの精神社会的問題が複合したいわゆる老年医学的症例であり、英語で表現するというハードルはさておき、内容的には、老年医学に従事する先生方は日常的にアプローチしているものでした。Group A では臨床医が大多数だったこともあり、患者さんの評価・Problem list の立案までは特に意見が割れることなくスムーズに事が進みました。面白かったのはその後、どのように Plan に落とし込むのが国や地域によって非常に異なるということです。介護を含む社会的処方、社会制度の影響を非常に強く受けます。特に中国山間部などでは、日本のような在宅介護処方は考えられず、独居であれば、かなり軽度の ADL 障害の段階で有料老人ホームなどの施設にいくことになるだろう、と中国の先生からお話を聞きま



した。韓国ではある程度皆保険制度が整っていますが、日本よりその範囲が狭く設定されており、一定以上は民間保険の範疇になるそうです。

Day2は講義ののち、グループごとに研究発表を行います。英語で8分程度のプレゼンテーションと質疑応答を行いました。英語でプレゼンするのは初めてでしたが、全員母国語ではありませんし、グループのメンバーも先生方も温かいコメントをしてくださり、勇気づけられました。

Day3は、Day1の症例検討、Day2の研究発表のそれぞれについて、グループから各1名の代表者が全員の前で発表を行います。私もGroupAの研究発表の代表に選んでいただき、初回に伝わりにくかった部分を修正して再度発表する機会を与えていただきました。先生方に

解析やDiscussionの修正点も指摘していただき、大変貴重な経験になりました。

最後に、課外活動の紹介です。Day1は伝統的上海料理のコース料理を堪能しにレストランへ、Day2は黄浦江のクルーズへ連れて行っていただきました。過去のMCAレポートをみても、この「ディナータイム」は開催地独特のおもてなしをしていただけるようです。上海の夜景を楽しみつつ、メンバーでワイワイ騒ぎ、とても楽しい時間を過ごしました。

3日間という短期間に集中して講義・ディスカッション・お食事と英語でコミュニケーションをとりながらアジア圏の老年医学の先生方と交流を深められる素晴らしいプログラムでした。特に、自分にとっては話すことへのハードルが下がったのが大きな収穫でした。介護保険などの社会制度を他国の方に分かるように説明するのが非常に難しかったため、高齢化社会の先陣を切る日本の老年科医として、制度理解を深め、他国の方にも制度や改善策を明瞭に説明できるようになりたいという目標ができました。

MCAそのものとはまったく関係ありませんが、上海から帰国したのが12月21日でしたので、1カ月ずれたら大変な騒ぎになっているところでした。今回ご一緒した中韓の先生方もそれぞれ多忙と聞いています。皆さんを陰ながら応援しつつ、今回の体験記の筆を置きたいと思います。